

長寿医療研究開発費 2024年度 総括研究報告

高齢者の健康増進を目指したデジタルヘルスケアの推進へ向けた研究（24－6）

主任研究者 島田 裕之

国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター長

研究要旨

情報技術を用いた医療や健康管理を支援するサービスやソリューションとしてのデジタルヘルスケアは、近年急速に進展し、保健や医療に対して大きな影響を及ぼしつつある。保健領域では、スマートフォンやウェアラブルデバイスによるヘルスケアアプリケーション（以下、ヘルスケアアプリ）の利用が増加している。さらに、ビッグデータと人工知能の活用は、病気の早期検出と治療の最適化において重要な役割を果たし、デジタルヘルスレコードの導入により医療情報の共有と利活用が進んでいる。これらの変化は、安価で持続的な健康管理と予防医療の提供において大きな進歩をもたらすと考えられる。しかしその一方で、高齢者ではデジタルリテラシーの格差が大きく、デジタルヘルスケアを必要としている対象者にサービスが届かないといった問題がある。健康増進や疾病予防については、自己管理による持続的な取り組みが必要となり、サービスへのアクセスは必須の課題であり、対策を進める必要がある。高齢者のデジタルリテラシー向上を支援するためには、まずはシンプルでわかりやすいサービスのユーザーインターフェイス (UI) /ユーザーエクスペリエンス (UX) を構築し、基本的なデジタルスキルを段階的に経験できるように工夫する必要がある。新しい技術に慣れるまでの時間を十分に取ったサポートの提供が重要であり、使いやすい UI の採用が高齢者のデジタルリテラシー向上の促進に繋がるものと考えられる。そのため、デジタルヘルスケアの効果を最大化し、エビデンス・プラクティス・ギャップを最小化するためには、デジタルヘルスケア技術の開発、効果検証、デジタルリテラシー向上の3点について PDCA を回しながら同時に取り組むことが必要となる。

本研究では、医療や介護の担い手が大幅に不足することが見込まれている、わが国における超高齢社会の危機克服に向け、デジタル技術の活用に必要な基盤資源の創出のため、デジタルヘルスケアに関連する高齢者の調査を実施するとともに、研究基盤の DX 化に取り組むことを目的とする。

本課題の目的達成に向けては、全3ヵ年の計画で研究を進める。1年目は、地域コホートの高齢者機能健診において、高齢者の心身機能・認知機能検査、内在的能力に加えて、デジタルリテラシーに関する調査を2,000名の対象者に実施し、これらの知見に基づくヘルスケアアプリの UI/UX 改善のための要件定義を作成することを目標とする。2年目には、さら

に 2,000 名を対象に調査を継続し、1 年目にまとめた要件定義を深化させてヘルスケアアプリの改修を実施する。3 年目には、デジタルリテラシーに関する追跡調査、およびデジタルヘルスに関するアンケート調査を進め、ヘルスケアアプリにおける、リテンション、アドヒアランスを高める UI/UX の要件定義のまとめと、リテンション、アドヒアランスに寄与するインセンティブ付与に関する検討を行う。

主任研究者

島田 裕之 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究（センター長）

分担研究者

片山 脩 国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部（特任主任研究員）

富田 浩輝 国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部（特任研究員）

A. 研究目的

本研究では、医療や介護の担い手が大幅に不足することが見込まれている、わが国における超高齢社会の危機克服に向け、デジタル技術の活用に必要な基盤資源の創出のため、デジタルヘルスケアに関連する高齢者の調査を実施するとともに、研究基盤の DX 化に取り組むことを目的とする。

B. 研究方法

本研究においては、高齢者におけるデジタルリテラシーの調査を実施し、高齢者が受け入れやすいサービスの創出に向けた知見を集積する。さらに、当研究部で開発した既存の認知機能検査やヘルスケアアプリの改修や保守・点検を行うことで、研究基盤の DX 化を推進する。なお、研究班の役割分担は、島田は研究全体の統括として進捗管理を実施する。調査グループでは、地域コホートの機能健診において、高齢者の心身機能・認知機能検査に加えて、デジタルリテラシーに関する調査を実施する。アプリ改修グループでは、認知機能検査 (National Center for Geriatrics and Gerontology-Functional assessment tool : NCGG-FAT)、オンライン通いの場アプリ、生きがいボランティア支援システムに関するアプリの運用保守、および改修を実施する（図 1）。

（倫理面への配慮）

本研究は、国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

調査グループ

1) 高齢者の心身・認知機能、内在的能力、デジタルリテラシーに関するアンケート調査

i. 倫理審査等

国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会より承認を得た。（課題名：高齢者の心身機能に関する包括的評価および追跡調査研究」＜ 受付番号 No1796 -4>）

ii. 高齢者機能健診の準備・実施状況に関して

調査のフィールドとなる協力自治体（主に愛知県刈谷市）との定例会議を開催し、高齢者機能健診での調査内容（デジタルリテラシー、心身機能・認知機能・内在的能力等）の準備を進めた。高齢者機能健診の実施に向けては、まず医師会への事業説明を事前におこない、調査内容等について共有を実施した。また、協力自治体と連携して検査会場の予約を進め、市の広報への掲載、公共施設と医療機関へのポスター掲示による周知活動などを開始し、密に連携をとりながら準備を実施した（図 2）。潜在の対象者を算出するため、自治体から受領した住民名簿を整理し、潜在の対象者の選定（1 年目の目標人数：2,000 名）を行い、高齢者機能健診案内用の郵送資料を順次発送し、高齢者機能健診を開始した（図 3）。

具体的には、2024 年 8 月 1 日号の刈谷市広報に開催概要を掲載した。広報用のポスターを作成し、刈谷市内の公共施設 46 ヶ所に掲示した（図 2）。また、刈谷市医師会に事業説明を行い、医療機関にもポスターの掲示を行い、周知活動を実施した。10 月から順次開始した高齢者機能健診の案内チラシと申込はがきは、これまで高齢者約 10,000 名に対して発送した。2024 年度には 2409 名に参加いただいた。今後も、順次案内を発送し、機能健診を継続して実施し、高齢者のデジタルリテラシーの現状等に関する実態調査を進めていく予定である。

アプリ改修グループ

2) UI/UX 改修のための要件定義

高齢者におけるヘルスケアアプリの UI/UX 改修における要件定義

当研究部では、要介護認定発生の主要因であるフレイルと認知症を予防するために、地域における一次予防の方法確立とマニュアル化、そして、その方法を広く発信することを重要な課題と捉え、その課題解決に向けて地域在住高齢者を対象としたコホート研究の実践や介入研究遂行に伴う知見の集積を実施している。また、これらの調査によって得られた知見をもとに、これまでにいくつかのヘルスケアアプリケーションの開発を進めてきた（図 1）。コホート研究の実践や介入研究遂行においては、多面的な認知機能の評価が可能である NCGG-FAT を活用し、さまざまな効果検証のアウトカムとして活用している。また、コロナ禍の感染症対策などにより活動が制限され、要介護や認知機能低下のリスクが高まる状況下においても健康増進が可能となるツールとして、「オンライン通いの場」アプリを開発し、スマートフォンを用いた活動の実践によるフレイルや認知症の予防効果の効果検証を、大規模なランダム化比較試験にて実施中である。さらに、高齢者の医療費や介護費用の増大の

原因となるため、近年社会問題として注目されている社会的孤立や孤独の対策として、能動的な活動を促進する一手段として、生きがいボランティア支援システム（プチボラアプリ）を開発し、現在、その効果検証のためのランダム化比較試験の準備を進めている最中である。

このようなヘルスケアアプリの開発と効果検証を通じ、高齢者にもわかりやすく、使いやすい UI/UX に改修するための要件定義書の作成を進めている。要件定義書の作成に向けては、中高年・シニア層向けデジタルプロダクトの調査・改善の専門企業と連携し、定期的な会議を実施中である。今後は、高齢者機能健診によって収集されたデータを活用し、高齢者にもわかりやすく、使いやすい UI/UX の要件定義書作成を進めていく。

3) アプリの利用継続性を高める機能拡充の検討

行動変容介入を目的とするヘルスケアアプリの使用を通じた予防・健康づくりが期待されているが、その効果を得るために重要となるアドヒアランスやリテンションを高く維持する方法については十分に整理されていない。これら、アドヒアランスやリテンションを阻害する要因には、1) 高齢者のデジタルリテラシーの低さ、2) 高齢者にとって魅力あるデジタルヘルスサービスの少なさ、3) 健康に関してエビデンスのないサービスの氾濫、4) 社会実装にあたってのアプローチの壁（支援拒否）等が考えられる。10 年前には、ほとんどの高齢者がスマートフォンを使用していなかったことから、高齢者をターゲットとしたデジタルリテラシー向上を支援する UI/UX の開発は遅れていると考えられる。高齢者のニーズを理解し、アドヒアランスやリテンションを高める UI/UX のデザイン開発が喫緊の課題である。そのため、高齢者を利用の中心とした、アプリの利用継続性を高める機能拡充の検討を実施した。

認知機能検査アプリ（NCGG-FAT スマホ版）の普及に向けた取り組み

認知症予防のためには、まずは自身の現在の認知機能の状態を正しく把握する必要がある。しかしながら、検査の信頼性や妥当性が十分に検証された認知機能検査のアプリは数少ない。NCGG-FAT は、タブレット端末を使用した認知機能検査アプリであり、その信頼性と妥当性は数多くの研究報告によって検証されている。そこで、より誰でも気軽に正確な認知機能検査が受けられるよう、NCGG-FAT のスマホ版を開発し、高齢者でも理解しやすく、操作しやすい画面遷移の検討を開始した。特にフォントの大きさ、簡潔な説明文章、練習問題での正解と不正解の表示方法について協議を重ね、結果画面等については、同年代と比較した成績がグラフですぐに理解できる方法を検討した。また、認知機能の状態を説明する文章についても検討した。自治体と研究協定などを締結し連携することによって認知機能低下が疑われる方の情報を保健医療福祉関係者や認知症初期集中チームと共有することも期待できる。

自己管理による活動促進を支援するアプリ（オンライン通いの場）

アプリを新規登録した高齢者が、安心してアプリを継続利用できるように、アプリの基礎となる機能性と信頼性について見直しを実施した。まずは、使いやすさを担保するためのベ

ース作りを強化するため、アプリの利用登録から使用開始までのチュートリアルに関する改修の検討を行った。また、各種アプリの機能利用促進に向けたトップ画面の改修や新機能についても協議を重ねて検討を進めた。現在は、改修にかかる要件定義が完了した。今後は、高齢者のデジタルリテラシーに関する実態調査の結果を踏まえ、改修したバージョンのアプリリリースを進めていく。自治体がその自治体で利用している方のアプリの利用状況を確認できる自治体管理画面について開発を進めている。自治体管理画面では各利用者の歩数の減少や運動機能低下、低栄養、口腔機能低下、閉じこもり、認知機能低下、気分の落ち込み、要介護リスクの把握が可能で自治体から利用者に対してアプリを通じてメッセージを発信できるように改修を行なっている。

高齢者の社会活動を促進するアプリ（プチボラ）

高齢者の社会活動や参加を促進するプチボラアプリのシステム構築を達成した。また、今後のアプリ普及と社会実装に向けた UI/UX の検討を進めた。現在は、プロトタイプのアプリの公開準備を実施している。今後は、本アプリの活用によって高齢者の社会活動の促進を支援することが、心身機能に与える影響について効果検証を実施していく予定である。

D. 考察と結論

本研究は、超高齢社会におけるデジタルヘルスケアの活用を促進するため、高齢者のデジタルリテラシーの実態を把握し、UI/UX の改善を通じてヘルスケアアプリの受容性を高めることを目的としている。高齢者の健康管理と疾病予防において、デジタル技術は大きな可能性を秘めているが、デジタルリテラシーの低さが課題となっていると考えられ、これを克服するための包括的なアプローチが求められる。

1. デジタルヘルスケアの重要性と課題

デジタルヘルスケアの進展により、スマートフォンやウェアラブルデバイスを活用したヘルスケアアプリの利用が増加している。しかし、高齢者においてはデジタルデバイド（情報格差）が顕著であり、技術的なハードルがデジタルヘルスの普及を妨げる要因となっている。特に、アプリの操作の複雑さ、情報過多、継続利用の動機付けの不足が問題視されている。

2. 研究の意義とアプローチ

本研究では、3年間の計画で高齢者のデジタルリテラシー調査とヘルスケアアプリの改修を実施する。1年目において、2,000名の高齢者を対象とした調査を行い、UI/UX改善のための要件定義を作成する。2年目にはさらなる調査を継続し、ヘルスケアアプリの改修を進める。3年目には、ヘルスケアアプリのリテンションおよびアドヒアランス向上のためのインセンティブの設計を行い、継続的な利用を促進する。

このようなアプローチは、エビデンス・プラクティス・ギャップを最小化するために重要であり、デジタルヘルスの社会実装に向けた基盤構築に貢献するものと考えられる。

3. 研究の成果と今後の展望

本研究の初年度の成果として、高齢者機能健診を通じたデータ収集が進められており、協力自治体との連携も強化されている。広報活動を通じて約 10,000 名の高齢者へアプローチし、調査対象者の選定が進行中である。

アプリ改修に関しては、高齢者のデジタルリテラシー向上を目的とした UI/UX の改善が進められており、専門企業との連携を通じて要件定義書の作成が進行中である。また、リテンションおよびアドヒアランス向上のための新たなアプローチとして、インセンティブ設計の検討が行われている。

今後の展望として、デジタルヘルスケアの受容性を高めるためには、単に技術を導入するだけでなく、高齢者が積極的に利用できる環境を整備することが不可欠である。特に、段階的なデジタルスキルの習得機会の提供、シンプルで直感的な UI/UX の設計、社会的支援の強化が求められる。さらに、デジタルヘルスのエビデンスを蓄積し、実際の介護・医療現場への応用を進めることで、社会的インパクトを最大化できると考えられる。

本研究の成果は、高齢者の健康増進や予防医療の実現に向けたデジタルヘルスの可能性を広げるものであり、今後の発展が期待される。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Kurita S, Doi T, Morikawa M, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Shimada H. Health-related and socio-demographic factors for self-monitoring of daily activities among community-dwelling older adults. *Journal of Public Health*, 2025. [in press]
2. Matsuda S, Doi T, Nakakubo S, Sakimoto F, Shimada H. Protective effects of social activity on the disability incidence among community-dwelling older adults with chronic pain. *J Am Med Dir Assoc*, 2025. [in press]
3. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Fujii K, Nishijima C, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Multivariable Prediction Model Development and Validation for Dropout in Community-Based Going-Out Program for Older Adults. *J Phys Act Health*, 2025. [in press]
4. Nakajima C, Tomida K, Shimoda T, Kawakami A, Shimada H. Sex differences in the relationship between exercise habits and loneliness among older adults: a cross-sectional study. *Psychogeriatrics*, 25(3): e70027, 2025. [Epub ahead of print]
5. Misu Y, Tsutsumimoto K, Kiuchi Y, Nishimoto K, Ohata T, Shimada H. Association of

- depression and loneliness with risk of disability among community-dwelling older adults. *Geriatr Nurs*, 62(Pt B): 144-148, 2025. [Epub ahead of print]
6. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Fujii K, Nishijima C, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Association of Timing of Physical Activity with Physical Frailty Incidence in Older Adults. *Gerontology*, 2025. [Epub ahead of print]
 7. Yamagiwa D, Katayama O, Yamaguchi R, Makino K, Shimada H. Association Between Relative Hypothermia and Cognitive Function in Older Adults: A Cross-Sectional Study. *J Am Med Dir Assoc*: 105472, 2025. [Epub ahead of print]
 8. Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Arai H. Combined effects of social isolation and loneliness on disability incidence in older adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 131: 105749, 2025. [Epub ahead of print]
 9. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Engagement in the Community-Based Going-Out Programs and the Association with Physical Frailty Assessed by the Kihon Checklist: A Cohort Study. *Gerontology*: 1-11, 2024. [Epub ahead of print]
 10. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Combined Self-Reported and Device-Measured Physical Activity Assessment and Disability Incidence in Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*: 105375, 2024. [Epub ahead of print]
 11. Matsuda S, Doi T, Katayama O, Makino K, Sakimoto F, Shimada H. Association of chronic low back pain and knee pain with subjective fatigue incidence among community-dwelling older adults: A prospective cohort study. *Geriatr Gerontol Int*, 25(3): 398-402, 2025.
 12. Fujii K, Harada K, Kurita S, Morikawa M, Nishijima C, Kakita D, Tsutsumimoto K, Shimada H. Association of employment and hobbies with depressive symptoms: A cross-sectional study. *J Psychiatr Res*, 183: 100-105, 2025.
 13. Yamaguchi R, Makino K, Katayama O, Yamagiwa D, Shimada H. Physical inactivity, depressive symptoms, and progression to sarcopenia in older adults: a 4-year longitudinal study. *J Nutr Health Aging*, 29(3): 100452, 2025.
 14. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Community-based going-out program and dementia onset in Japanese older adults: A longitudinal observational study. *Arch Gerontol Geriatr*, 130: 105736, 2025.
 15. Kiuchi Y, Tsutsumimoto K, Nishimoto K, Misu Y, Nosaka S, Ohata T, Makizako H, Shimada H. Association of trajectories of physical frailty status and incident disability in community-dwelling older adults: A longitudinal study. *Geriatr Gerontol Int*, 25(2): 220-225, 2025.
 16. Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Maeda K, Iijima K, Shimada H, Inoue T, Yamada M, Momosaki R, Wakabayashi H, Yamamoto K, Arai H. Effects of digital-based interventions on the outcomes of the eligibility criteria for sarcopenia in healthy older adults: A

systematic review and meta-analysis. *Ageing Res Rev*, 104: 102663, 2025.

17. Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Makizako H. A New Computer-Based Cognitive Measure for Early Detection of Dementia Risk (Japan Cognitive Function Test): Validation Study. *J Med Internet Res*, 27: e59015, 2025.
18. Doi T, Makino K, Tomida K, Tsutsumimoto K, Sakimoto F, Matsuda S, Shimada H. Life-Space Activities and Incident Dementia Among Older Adults: Insights From a Cohort Study. *J Am Med Dir Assoc*, 26(2): 105416, 2025.
19. Nishijima C, Harada K, Kurita S, Morikawa M, Fujii K, Kakita D, Shimada H. Dietary variety and the relationship between polypharmacy and incident disability among Japanese community-dwelling older adults: A longitudinal study. *Maturitas*, 193: 108184, 2025.
20. Yamaguchi R, Makino K, Katayama O, Yamagiwa D, Shimada H. Relationship between self-rated health, physical frailty, and incidence of disability among Japanese community-dwelling older adults: A longitudinal prospective cohort study. *Prev Med*, 191: 108210, 2025.
21. Yamagiwa D, Makino K, Katayama O, Yamaguchi R, Georg VF, Yamashiro Y, Sudo M, Shimada H. Examination of Gait Characteristics Related to Sarcopenia in Community-Dwelling Older Adults: A Study Focusing on Plantar Pressure. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*, 16(1): e13634, 2025.
22. Kawakami A, Tomida K, Shimoda T, Nakajima C, Shimada H. Effect of high health literacy and the frequency of social activities on preventing disability. *Geriatr Nurs*, 61: 526-531, 2025.
23. Misu Y, Tsutsumimoto K, Kiuchi Y, Nishimoto K, Ohata T, Shimada H. Coexistence of somatic and psychological symptoms of depression among community-dwelling older adults is associated with the incidence of dementia. *J Alzheimers Dis*, 103(1): 149-158, 2025.
24. Matsuda S, Doi T, Katayama O, Sakimoto F, Makino K, Sudo M, Yamashiro Y, Takayanagi N, Shimada H. Chronic low back pain and decreased physical activity are associated with social frailty incidence among community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*, 25(1): 25-30, 2025.
25. Kiuchi Y, Tsutsumimoto K, Nishimoto K, Misu Y, Ohata T, Makizako H, Shimada H. Effect of eating alone and depression symptoms on incident disability among community-dwelling older adults. *Nutrition*, 129: 112599, 2025.
26. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Dose-Response Relationships of Daily Steps with Disability Incidence and All-Cause Mortality Stratified by Age and Physical Frailty. *J Am Med Dir Assoc*, 26(1): 105356, 2025.
27. Kiuchi Y, Makizako H, Kimura M, Nakai Y, Taniguchi Y, Akaida S, Tateishi M, Kubozono T, Takenaka T, Shimada H, Ohishi M. Association of Combined Low Physical Activity and Low Dietary Diversity with Mild Cognitive Impairment among Community-Dwelling Japanese Older Adults. *Ann Geriatr Med Res*, 28(4): 453-459, 2024.

28. Nishimoto K, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kiuchi Y, Misu Y, Ohata T, Shimada H. Association between cardiovascular disease risk and sarcopenia in community-dwelling Japanese older adults. *Geriatr Gerontol Int*, 24(12): 1328-1334, 2024.
29. Nakajima C, Tomida K, Shimoda T, Kawakami A, Shimada H. Association between willingness to exercise and incident disability in older adults: a prospective longitudinal cohort study. *Eur Geriatr Med*, 15(6): 1683-1689, 2024.
30. von Fingerhut G, Makino K, Katayama O, Yamaguchi R, Yamagiwa D, Bone JK, Shimada H. Associations between Japanese calligraphy practice and sleep quality in community-dwelling older adults: A cross-sectional Study. *Sleep Med X*, 8: 100124, 2024.
31. Sugimoto T, Araki A, Fujita H, Fujita K, Honda K, Inagaki N, Ishida T, Kato J, Kishi M, Kishino Y, Kobayashi K, Kouyama K, Kuroda Y, Kuwahata S, Matsumoto N, Murakami T, Noma H, Ogino J, Ogura M, Ohishi M, Shimada H, Sugimoto K, Takenaka T, Tamura Y, Tokuda H, Uchida K, Umegaki H, Sakurai T, J-MIND-Diabetes study group. Multidomain Intervention Trial for Preventing Cognitive Decline among Older Adults with Type 2 Diabetes: J-MIND-Diabetes. *J Prev Alzheimers Dis*, 11(6): 1604-1614, 2024.
32. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Tsutsumimoto K, Shimada H. Prevalence and Prognostic Impact of Multiple Frailty Domain in Japanese Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*, 25(11): 105238, 2024.
33. Shimada H, Ishii H, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kurita S, Arai H. Study protocol of the safe driving program for the prevention of car accidents: A randomized controlled trial protocol. *Geriatr Gerontol Int*, 24(11): 1218-1222, 2024.
34. Kakita D, Harada K, Kurita S, Morikawa M, Nishijima C, Fujii K, Shimada H. Impact of fat to muscle ratio with risk of disability on community-dwelling Japanese older adults: A 5-year longitudinal study. *Arch Gerontol Geriatr*, 126: 105524, 2024.
35. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Combined effects of loneliness and diabetes mellitus on disability incidence among older Japanese adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 126: 105544, 2024.
36. Nishimoto K, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kiuchi Y, Misu Y, Ohata T, Shimada H. Association between physical, cognitive, and social activities with the incident of sarcopenia among community-dwelling older adults: a 4-year longitudinal study. *Eur Geriatr Med*, 15(5): 1331-1338, 2024.
37. Kawakami A, Tomida K, Shimoda T, Nakajima C, Shimada H. Association between social isolation and diversity in food intake by gender in community-dwelling older adults: A cross-sectional study. *Geriatr Gerontol Int*, 24(9): 930-938, 2024.
38. Kiuchi Y, Makizako H, Nakai Y, Taniguchi Y, Akaida S, Tateishi M, Kimura M, Takenaka T, Kubozono T, Tsutsumimoto K, Shimada H, Ohishi M. Associations of Eating Out and Dietary

- Diversity with Mild Cognitive Impairment among Community-Dwelling Older Adults. *Ann Geriatr Med Res*, 28(3): 266-272, 2024.
39. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Association between the level of social participation and depressive symptoms among older Japanese adults: a cross-sectional survey. *Psychogeriatrics*, 24(5): 1095-1102, 2024.
 40. Sawa R, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Sakimoto F, Matsuda S, Shimada H. Association Between Falls and Social Frailty in Community-Dwelling Older Japanese Adults. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci*, 79(9): gbae127, 2024.
 41. Tomida K, Shimoda T, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Validation of the Optimal University of California Los Angeles Loneliness Scale Cutoff Score in Screening for the Prevention of Disability Occurrence Among Older Japanese Adults. *Int J Geriatr Psychiatry*, 39(9): e6137, 2024.
 42. Katayama O, Stern Y, Habeck C, Coors A, Lee S, Harada K, Makino K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Fujii K, Kodama T, Shimada H. Detection of neurophysiological markers of cognitive reserve: an EEG study. *Front Aging Neurosci*, 16: 1401818, 2024.
 43. Fujii K, Lee S, Katayama O, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Shimada H. Diversity in productive activities enhances life satisfaction among Japanese community-dwelling older adults: A cross-sectional study. *Geriatr Nurs*, 58: 232-237, 2024.
 44. Hato S, Hayashi Y, Shimada H. Prediction of decline in activities of daily living using motor performance tests in older adults requiring long-term care. *Arch Gerontol Geriatr*, 122: 105388, 2024.
 45. Shimoda T, Tomida K, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Development of a weighted scoring model for social activities to predict disability incidents among older Japanese adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 122: 105387, 2024.
 46. Kurita S, Doi T, Harada K, Morikawa M, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Shimada H. Subjective memory concerns and car collisions: A cross-sectional cohort study among older Japanese drivers. *Heliyon*, 10(12): e33080, 2024.
 47. Sakurai T, Sugimoto T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsumoto N, Matsuo K, Michikawa M, Nakamura A, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Uchida K, Umegaki H, Wakayama S, Arai H, J-MINT study group. Japan-Multimodal Intervention Trial for the Prevention of Dementia: A randomized controlled trial. *Alzheimers Dement*, 20(6): 3918-3930, 2024.
 48. Nishijima C, Harada K, Katayama O, Kurita S, Morikawa M, Yamaguchi R, Fujii K, Misu Y, Kakita D, Shimada H. Association between perceived value of adopting new behaviors and

- incident disability among Japanese community-dwelling older adults. *Prev Med*, 183: 107976, 2024.
49. Tomida K, Shimoda T, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Social Isolation/loneliness and Mobility Disability Among Older Adults. *Curr Geriatr Rep*, 13(2): 86-92, 2024.
 50. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Estimating the Effect of Engagement in Community-Based Going-Out Program on Incidence Disability in Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*, 25(6): 104973, 2024.
 51. Fujii K, Harada K, Kurita S, Morikawa M, Nishijima C, Kakita D, Shimada H. Social participation in the neighborhood community prevents onset of disability in community-dwelling older adults whose life space with activities is limited: A 2-year prospective cohort study. *Geriatr Gerontol Int*, 24(6): 609-618, 2024.
 52. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Fujii K, Nishijima C, Kakita D, Shimada H. Association of objectively measured physical activity with incidence disability in older adults with/without social isolation. *Arch Gerontol Geriatr*, 120: 105338, 2024.
 53. Tomida K, Shimoda T, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Risk of dementia with hearing impairment and social isolation. *Alzheimers Dement (Amst)*, 16(2): e12586, 2024.
 54. Tomida K, Lee S, Makino K, Katayama O, Harada K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Association between Hearing Aid Use and Cognitive Function in Persons with Hearing Impairment Stratified by Cardiovascular Risk. *J Pers Med*, 14(5): 479, 2024.
 55. Makino K, Doi T, Tsutsumimoto K, Katayama O, Yamaguchi R, Georg VF, Yamagiwa D, Makizako H, Shimada H. Impacts of Negative and Positive Life Events on Development of Social Frailty among Community-Dwelling Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*, 25(4): 690-696 e1, 2024.
 56. Kiuchi Y, Tsutsumimoto K, Nishimoto K, Misu Y, Ohata T, Makizako H, Shimada H. Association between dietary diversity and chronic kidney disease in community-dwelling older adults. *Eur Geriatr Med*, 15(2): 545-552, 2024.
 57. Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Arai H. Combined impact of physical frailty and social isolation on use of long-term care insurance in Japan: A longitudinal observational study. *Maturitas*, 182: 107921, 2024.

2. 学会発表

国際学会

1. Shimada H. [speech]Management of Cognitive impairment: experience from Japan. Taiwan Academy of Physical Medicine & Rehabilitation, Taipei, Taiwan, Mar 22, 2025.
2. Shimada H. [speech + demonstration] Introduction of Cognicise. Taiwan Academy of Physical

Medicine & Rehabilitation, Taipei, Taiwan, Mar 22, 2025.

3. Shimada H. Session [Community healthcare] Strategies for engaging older people to stay active in the community. West Pacific Rim Consortium on Healthy Aging 2024, Nagoya, Japan, Nov 29, 2024.
4. Kurita S, Doi T, Harada K, Morikawa M, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Shimada H. Subjective memory concerns and driving anxiety in older Japanese drivers. Australian Association of Gerontology (AAG2024), Tasmania, Australia, Nov 15, 2024. Oral presentation.
5. Sakimoto F, Doi T, Katayama O, Matsuda S, Makino K, Shimada H. Exploring activities related to life satisfaction among older adults living alone. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024), Sapporo, Japan, Nov 8, 2024. Poster presentation.
6. Misu Y, Tsutsumimoto K, Kiuchi Y, Nishimoto K, Ohata T, Shimada H. Absence of Loneliness Reduce the Risk of Disability Among Community-Dwelling Older Adults with Depression: 2-Year Prospective Cohort Study. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024), Sapporo, Japan, Nov 7, 2024. Poster presentation.
7. Yamaguchi R, Katayama O, Makino K, Yamagiwa D, Shimada H. Joint association of self-rated health and physical frailty with use of long-term care insurance in Japan. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia (ACFS2024), Bangkok, Thailand, Oct 10, 2024. Poster presentation.
8. Misu Y, Tsutsumimoto K, Kiuchi Y, Nishimoto K, Nosaka S, Ohata T, Shimada H. Association between psychological frailty and incidence of dementia among community-dwelling older adults. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia (ACFS2024), Bangkok, Thailand, Oct 7, 2024. Outstanding poster presentation.
9. Katayama O, Stern Y, Habeck C, Coors A, Lee S, Harada K, Makino K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Fujii K, Kodama T, Shimada H. An EEG study of neurophysiological markers of cognitive reserve. Alzheimer's Association International Conference (AAIC2024), Philadelphia, United States of America, Jul 30, 2024. Poster presentation.
10. Kiuchi Y, Tsutsumimoto K, Nishimoto K, Misu Y, Ohata T, Makizako H, Shimada H. Effect of eating alone and incident disability among Japanese community-dwelling older adults: A 40-month follow-up longitudinal study. The 53rd Annual Conference of the British Society of Gerontology, Newcastle upon Tyne, United Kingdom, Jul 3, 2024. Poster presentation.
11. Morikawa M, Harada K, Kurita S, Nishijima C, Fujii K, Kakita D, Yamashiro Y, Takayanagi N, Sudo M, Shimada H. Estimating the Effect of Engagement in Community-based Going-Out Program on Incidence Disability in Older Adults. The 53rd Annual Conference of the British Society of Gerontology, Newcastle upon Tyne, United Kingdom, Jul 3, 2024. Poster presentation.
12. Tomida K, Makino K, Shimoda T, Nakajima C, Kawakami A, Shimada H. Combined impact

of hearing impairment and social isolation with lack of conversation on the risk of dementia. The 53rd Annual Conference of the British Society of Gerontology, Newcastle upon Tyne, United Kingdom, Jul 3, 2024. Poster presentation.

13. Kurita S, Doi T, Harada K, Katayama O, Morikawa M, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Yamaguchi R, Von Fingerhut G, Kakita D, Shimada H. Motoric cognitive risk syndrome and car collisions in older drivers in Japan. Australian Dementia Research Forum 2024, Gold Coast, Australia, Jun 2, 2024. Poster presentation.

国内学会

14. 島田裕之. 基調講演「目的を持った運動・スポーツによる認知症予防効果」. 第 11 回日本スポーツ理学療法学会, 横浜市, 2025 年 1 月 25 日.
15. 森川将徳, 原田健次, 栗田智史, 西島千陽, 藤井一弥, 垣田大輔, 山城由華吏, 高柳直人, 須藤元喜, 島田裕之. 地域在住高齢者における身体活動タイミングと身体的フレイル発生との関連. 第 11 回日本スポーツ理学療法学会, 横浜市, 2025 年 1 月 25 日.
16. 下田隆大, 富田浩輝, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者における糖尿病と社会的孤立が孤独感に及ぼす影響—性別での層別解析—. 第 10 回日本精神・心理領域理学療法研究会学術大会, 東京都, 2025 年 1 月 11 日. 口述発表.
17. 藤井一弥, 原田健次, 森川将徳, 西島千陽, 垣田大輔, 島田裕之. 地域在住高齢者における生活満足度とフレイル発生の関連性—前向きコホート研究—. 第 11 回日本地域理学療法学会学術大会, 高槻市, 2024 年 11 月 16 日. 優秀演題 1(調査研究部門).
18. 島田裕之, 土井剛彦, 堤本広大, 崎本史生, 見須裕香. 会話インデックスと認知症発症リスクとの関連. 第 58 回日本作業療法学会, 札幌市 (動画配信), 2024 年 11 月 10 日. 口述発表.
19. 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 加齢による視聴覚機能低下に伴う日常生活活動の困難感と新規要介護発生との関連. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会, 柴田町, 2024 年 11 月 9 日. 口述発表.
20. 藤井一弥, 原田健次, 森川将徳, 西島千陽, 垣田大輔, 島田裕之. Mild Cognitive Impairment を有する高齢者における productive activity への参加と well-being の関連性. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会, 柴田町, 2024 年 11 月 9 日. 口述発表.
21. 千葉一平, 李相侖, 裴成琉, 牧野圭太郎, 片山脩, 原田健次, 富田浩輝, 森川将徳, 山城由華吏, 高柳直人, 須藤元喜, 島田裕之. 軽度認知障害を有する地域在住高齢者における身体活動量の軌跡と認知症発症の関連. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会, 柴田町, 2024 年 11 月 9 日. 口述発表.
22. 見須裕香, 堤本広大, 木内悠人, 西本和平, 島田裕之. 抑うつ症状を呈する地域在住高齢者における孤独感と生活機能低下の関連. 第 58 回日本作業療法学会, 札幌市, 2024 年 11 月 9 日. 口述発表.
23. 原田健次, 森川将徳, 藤井一弥, 西島千陽, 垣田大輔, 島田裕之. シンポジウム 4【サルコペニア・フレイル対策としてのデジタルヘルス技術の活用】予防に向けたデジタル技術の活用とデジタルデバインド対策. 第 11 回日本サルコペニア・フレイル学会大

会, 東京都, 2024 年 11 月 2 日.

24. 島田裕之. シンポジウム 4 【サルコペニア・フレイル対策としてのデジタルヘルス技術の活用】. 第 11 回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 東京都, 2024 年 11 月 2 日. 座長.
25. 島田裕之. 教育講演 1 「保健・医療・ケア領域に関する科学的エビデンスの創出」 保健領域におけるエビデンスの構築: コホート研究と介入研究. 第 29 回日本基礎理学療法学会学術集会, 2024 年 10 月 12 日.
26. 島田裕之. 合同企画ジョイントセッション③ 臨床現場に活かす運動指導: 実際とエビデンス「認知症予防へ向けた運動指導」. 第 43 回日本臨床運動療法学会学術集会, 京都市, 2024 年 9 月 14 日.
27. 川上歩花, 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 島田裕之. 地域在住高齢者における口腔機能低下と社会的孤立の複合は認知機能低下と関連するか?. 第 71 回日本栄養改善学会学術大会, 大阪市, 2024 年 9 月 7 日. 口述発表.
28. 山口亨, 片山脩, 牧野圭太郎, 山際大樹, 島田裕之. 主観的健康感とフレイルの要介護発生との関連性: 性差の検討. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
29. 下田隆大, 富田浩輝, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者の要介護発生、全死亡に対する歩数の用量反応性の検討—年齢、フレイルによる層別解析—. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
30. 木内悠人, 堤本広大, 西本和平, 見須裕香, 大畑智加, 牧迫飛雄馬, 島田裕之. 地域在住高齢者におけるフレイルからの脱却が新規介護認定に与える影響—高齢者大規模コホート—. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
31. 西島千陽, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 藤井一弥, 垣田大輔, 島田裕之. 地域在住高齢者におけるポリファーマシーによる要介護発生リスクと食品摂取多様性. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
32. 川上歩花, 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 島田裕之. 地域在住高齢者におけるヘルスリテラシーと社会活動の複合要因が要介護発生リスクに及ぼす影響の検討. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
33. 崎本史生, 土井剛彦, 石井秀明, 牧野圭太郎, 松田総一郎, 島田裕之. 自動車運転中止後の抑うつ発生に対する保護的活動の探索—縦断研究—. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
34. 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者の視聴覚機能低下に伴う二重感覚障害と心身・認知機能低下との関連. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.
35. 森川将徳, 原田健次, 栗田智史, 西島千陽, 藤井一弥, 垣田大輔, 山城由華吏, 高柳直人, 須藤元喜, 島田裕之. 外出促進プログラムへの継続参加が認知症発症に与える影響. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 4 日. 口述発表.

36. 島田裕之. 寄付セミナー（第一生命保険株式会社による寄付）「健康増進のための行動変容促進プログラムの効果」. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月4日.
37. 波戸真之介, 林悠太, 島田裕之. 科学的介護情報システムデータを用いた軽度要介護者と中重度要介護者の重度化要因の比較. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
38. 山際大樹, 牧野圭太郎, 片山脩, 山口亨, 島田裕之. サルコペニア高齢者においても歩行特性と要介護発生は関連する. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
39. 小玉鮎人, 菅原薫, 大沼貴子, 梅津葉子, 小野剛, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 大田秀隆. オレンジレジストリによる秋田県地域在住高齢者における5年後のMCI移行に関連する要因について. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
40. 垣田大輔, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 西島千陽, 藤井一弥, 島田裕之. 地域在住高齢者におけるサルコペニアと各ライフステージの身体活動との関連. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
41. 片山脩, Yaakov Stern, Annabell Coors, 原田健次, 牧野圭太郎, 山口亨, 西島千陽, 見須裕香, 兒玉隆之, 島田裕之. 脳波ネットワーク解析による認知予備能の神経実装の解明. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
42. 牧野圭太郎, 李相侖, 片山脩, 富田浩輝, 山口亨, 山際大樹, 島田裕之. 地域高齢者の認知症発症に対するNCGG-IADLスケールの予測妥当性の検証. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.
43. 原田健次, 森川将徳, 藤井一弥, 西島千陽, 栗田智史, 垣田大輔, 島田裕之. 地域在住高齢者における行動範囲・活動状況は海馬体積のみと関連する. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. 口述発表.
44. 藤井一弥, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 西島千陽, 垣田大輔, 島田裕之. 労働および余暇時間に対する満足度の低下は抑うつ症状発生の危険因子となる. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. 口述発表.
45. 中島千佳, 富田浩輝, 下田隆大, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者における運動習慣と孤独感の関連および性差の検討. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. 口述発表.
46. 松田総一郎, 土井剛彦, 片山脩, 牧野圭太郎, 崎本史生, 島田裕之. 慢性腰痛を有する地域在住高齢者における社会的フレイルの発生—運動習慣による層別解析—. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. 口述発表.
47. 橋立博幸, 島田裕之, 土井剛彦, 堤本広大. 地域在住高齢者における歩行予備能は身体的フレイルと関連する. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日.

口述発表.

48. 見須裕香, 堤本広大, 木内悠人, 西本和平, 大畑智加, 島田裕之. 抑うつ症状を呈する高齢者における要介護リスクの低下に関連する余暇活動. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 3 日. セレクション演題.
49. 島田裕之. スポンサーセミナー (共催: インターリハ株式会社) 「物理刺激による認知症予防の可能性」. 第 3 回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024 年 8 月 3 日.
50. 下田隆大, 富田浩輝, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者における糖尿病と孤独感の合併が要介護発生に及ぼす影響. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 神戸市, 2024 年 7 月 14 日. 口述発表.
51. 西本和平, 堤本広大, 木内悠人, 見須裕香, 大畑智加, 島田裕之. 地域在住高齢者における尿失禁と社会的フレイルとの関連—4 年追跡調査—. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 15 日. 口述発表.
52. 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 加齢性難聴と会話機会が減少した社会的孤立状態の複合は認知症発症リスクを高める. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 15 日. 口述発表.
53. 片山脩, Yaakov Stern, Christian Habeck, 原田健次, 牧野圭太郎, 山口亨, 西島千陽, 見須裕香, 兒玉隆之, 島田裕之. 地域在住高齢者における軽度認知障害の神経生理学的マーカーの解明: 脳波研究. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 15 日. 口述発表.
54. 島田裕之. 一般演題 口述発表「フレイル・サルコペニア・カヘキシア 6」. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 15 日. 座長.
55. 島田裕之, 大河内二郎. シンポジウム 32 (科学的介護検討小委員会) 「科学的介護推進へ向けた LIFE の役割と展望」. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 15 日. 座長.
56. 垣田大輔, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 西島千陽, 藤井一弥, 島田裕之. 地域在住高齢者における Fat to muscle ratio と 5 年間の新規要介護発生リスクとの関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
57. 土井剛彦, 牧野圭太郎, 富田浩輝, 堤本広大, 崎本史生, 松田総一郎, 島田裕之. 身体・社会的活動に着目した生活範囲と認知症発症は関連するのか?. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
58. 原田健次, 森川将徳, 藤井一弥, 西島千陽, 栗田智史, 垣田大輔, 島田裕之. デジタルデバイスによる認知機能検査と脳構造の関係; 認知機能低下の有無により関係は異なる. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
59. 森川将徳, 原田健次, 栗田智史, 西島千陽, 藤井一弥, 垣田大輔, 山城由華史, 高柳直人, 須藤元喜, 島田裕之. 外出促進プログラムへの継続参加が身体的フレイルの発生に与える影響. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.

表.

60. 崎本史生, 土井剛彦, 片山脩, 松田総一郎, 牧野圭太郎, 島田裕之. 多様な活動と生活満足度との関連—横断研究. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
61. 李相侖, 牧野圭太郎, 原田健次, 富田浩輝, 片山脩, 森川将徳, 藤井一弥, 島田裕之. 地域高齢者のライフイベントの発生率とフレイルの関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
62. 藤井一弥, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 西島千陽, 垣田大輔, 島田裕之. 高齢期における就労および趣味活動の実施とうつ兆候の関連性—横断研究—. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
63. 松田総一郎, 土井剛彦, 片山脩, 崎本史生, 牧野圭太郎, 須藤元喜, 山城由華吏, 高柳直人, 島田裕之. 地域在住高齢者における慢性腰痛と身体活動低下は社会的フレイルの発症と関連する. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. ポスター発表.
64. Georg von Fingerhut, 牧野圭太郎, 片山脩, 山口亨, 山際大樹, 島田裕之. 高齢期の起床潜時が死亡リスクに及ぼす影響. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
65. 見須裕香, 堤本広大, 木内悠人, 西本和平, 大畑智加, 島田裕之. 老年期うつにおける心理症状および身体症状と認知症発症の関連—5 年追跡調査—. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 一般演題 優秀演題賞候補セッション.
66. 片山脩, Yaakov Stern, Annabell Coors, 原田健次, 牧野圭太郎, 山口亨, 西島千陽, 見須裕香, 兒玉隆之, 島田裕之. 認知予備能の神経生理学的マーカーの解明: 脳波研究. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
67. 山口亨, 牧野圭太郎, 片山脩, Georg von Fingerhut, 山際大樹, 島田裕之. 主観的健康感と客観的健康の不一致は要介護リスクを高める. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
68. 牧野圭太郎, 李相侖, 富田浩輝, 片山脩, 山口亨, Georg von Fingerhut, 山際大樹, 島田裕之. 高齢期の認知機能とヘルスリテラシーが認知症発症リスクに及ぼす影響. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
69. 中島千佳, 富田浩輝, 下田隆大, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者における運動意欲と要介護発生との関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
70. 下田隆大, 富田浩輝, 中島千佳, 川上歩花, 堤本広大, 島田裕之. 身体, 認知および社会的フレイルは地域在住高齢者における要介護発生に独立して関連するか. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.
71. 山際大樹, 牧野圭太郎, 山口亨, Georg von Fingerhut, 片山脩, 山城由華吏, 須藤元喜, 島

田裕之.サルコペニア高齢者の歩行特性：足底圧に着目した検討. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 口述発表.

72. 島田裕之. シンポジウム 30「老年医学における大規模データベースの活用」高齢者地域コホート研究と医療・介護レセプトデータの連携解析. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日.
73. 島田裕之, 三村将. シンポジウム 14「高齢者の自動車運転に関わる課題と解決方法」. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 14 日. 座長.
74. 西島千陽, 原田健次, 栗田智史, 森川将徳, 藤井一弥, 垣田大輔, 島田裕之. ポリファーマシーと食事、要介護発生リスクとの関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 13 日. ポスター発表.
75. 木内悠人, 堤本広大, 西本和平, 見須裕香, 大畑智加, 牧迫飛雄馬, 島田裕之. 地域在住高齢者における孤食およびうつ、新規介護認定との関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 13 日. 口述発表.
76. 川上歩花, 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 島田裕之. 性別の違いにおける食品摂取の多様性と社会的孤立の関連. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 13 日. 口述発表.
77. 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 加齢性難聴と会話機会が減少した社会的孤立状態の複合は認知症発症リスクを高める. 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 13 日. 委員会特別企画 1 (教育委員会)「若手・基礎ミーティング」.
78. 池田望, 島田裕之. シンポジウム 7「老年医学におけるセラピストの役割」(日本老年療法学会との合同企画). 第 66 回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024 年 6 月 13 日. 座長.
79. 富田浩輝, 下田隆大, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 地域在住高齢者の介護予防スクリーニングのための孤独感尺度の最適カットオフ値の検証. 第 24 回日本抗加齢医学会総会, 熊本市, 2024 年 6 月 1 日. 優秀演題セッション.
80. 下田隆大, 富田浩輝, 中島千佳, 川上歩花, 島田裕之. 要介護予防に資する地域在住高齢者の社会活動指標の開発. 第 32 回愛知県理学療法学術大会, 名古屋市, 2024 年 5 月 19 日. 口述発表.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

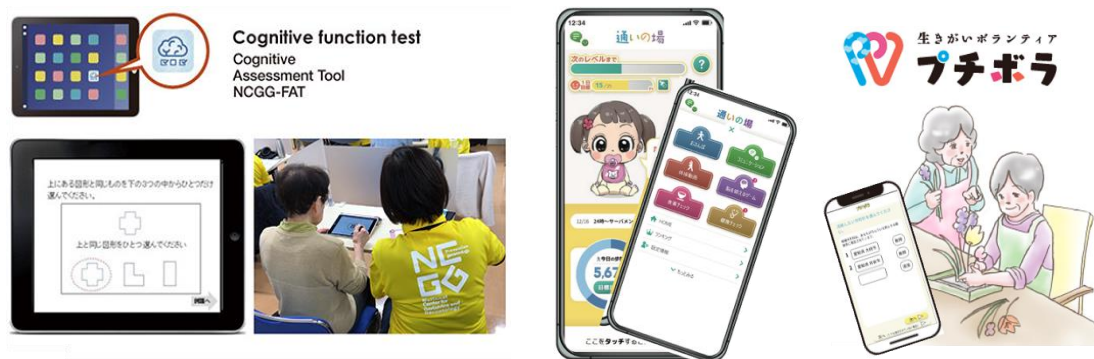
2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

図 1. ヘルスケアアプリ



(NCGG-FAT・オンライン通いの場アプリ・生きがいボランティア支援システム)



図 2. 高齢者機能健診における案内資料



図 3. 高齢者機能健診の様子